

陸上競技実施要領

1 競技規則

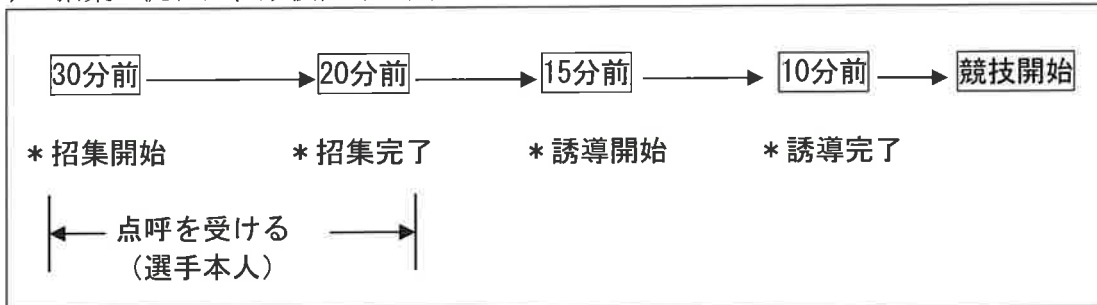
競技規則は、令和8年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和8年4月1日より実施分発行）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 練習

大会当日の練習は、安全に注意しながらAKAKIRI FIERD・屋内走路で行うこと。
（KUROKIRI STADIUMを9時30分まで開放する）

3 招集

- (1) 招集所は、陸上競技場の第2ゲート入口付近に設ける。
- (2) 招集の流れは、競技開始時刻を基準として次のとおりとする。



- (3) 招集の方法は次の順とする。

- ① 競技者は、競技開始時刻の30分前から20分前までに点呼を受ける。代理は認めない。なお、点呼の際は競技役員にユニフォームに付けた番号布（アスリートビブス）を見せ確認を受ける。
- ② 点呼を受けた競技者は、競技誘導者の指示に従い整列をする。
- ③ 招集完了時刻に遅れた選手は欠場とみなし、競技に出場することができない。

4 競技場への入場

競技場への入場は、招集完了後、競技誘導者の指示の下に誘導係が行う。（選手、介助および伴走者以外の競技場内への立ち入りは一切禁止する。なお、あらかじめ介助および伴走を届け出ている選手、視覚部門の障害区分24の選手は、招集場所で介助・伴走者用ビブス、アイマスクを受け取り入場すること。アイマスクは、競技開始前に着用すること。また、選手の競技終了とともに速やかに終了者控所にて係へビブス、アイマスクを返却すること。）

5 競技の服装

- (1) 競技を行うときは、競技用の服装（ランニングシャツ、トレーニングシャツ等）を着用しなければならない。
- (2) 主催者が配布した番号布（アスリートビブス）は、ユニフォームの胸部及び背部につけること。
- (3) トラック競技の全種目においては、競技役員から腰ナンバーを受け取り、右腰（車椅子競技者はヘルメットまたは右肩）に貼り付ける。なお、出場者が1名の種目においては、腰ナンバーを配布しない。
- (4) 競技にスパイクシューズを使用する場合は、競技場が全天候型であるため、スパイクのピンの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳、ソフトボール投、ジャベリックスローの場合は12mm以下とする。

6 競技方法

- (1) 身体障がい者の部の競技は、原則として1部（39才以下）と2部（40才以上）と分けて実施するが、競技運営上、1部・2部を同時に、又、他の障害区分と同時に実施することがある。
また、知的障がい者の部も原則として、少年（19才以下）と青年（20～35才）と壮年（36才以上）とに分けて実施するが、競技運営上、少年・青年・壮年を同時に実施することがある。
- (2) トラック競技のレーン順及びフィールド競技の試技順は、プログラム記載の順序とする
トラック競技で欠場がある場合は、そのレーンを空けて実施するものとする。

- (3) セパレートレーンで行う種目は、50m・100m・200m・400mとする。
オープンレーンで行う種目は、800m・1500m・車いす800m・車いす1500mとする。
- (4) トラック競技で故意に他の競技者を妨害した場合は、その競技者を失格させる。
なお、この場合の再レースは行わない。
- (5) スラロームは、バックスタンド前走路の3・7レーンを使用して2人1組で行う。
- (6) 50mのスタートは、すべてスタンディングスタートとし、スターティングブロックは使用できない。
- (7) 視覚部門の障害区分24に属する者の50mは9レーン分の幅を使用する。使用する音源はハンドマイクに収納した音響を用いる。また、競技役員が安全上やむなく声や身体に触れるなどによって方向を指示した場合でも、競技は成立するものとする。
- (8) 視覚部門の障害区分24に属する者の50mを除く競走競技では、次のような範囲で伴走者を認める。ただし、伴走者の反則は競技者の反則とする。
- ア 1人とする。ただし、フィニッシュラインの50m手前までならば1回に限り交代してもよい。
- イ いかなる場合も、伴走者は競技者を引っ張ったり、押して前進させるといった推進を助けるようなことをしてはならない。
- 【注】推進を助けるような行為があった場合、フィニッシュ後に失格となる場合がある。
- ウ 手をつなぐとか、50cm以内の紐等を持つことによって走路の指示をしてはならない。
- エ 声をかけて走路の指示をしてはならない。
- 【注】フィニッシュで、競技者の斜め後ろに位置しなかった場合は、失格とする。
- オ 安全管理上やむを得ない場合は、競技役員が声や競技者の身体に触れるなどによって方向を指示した場合でも競技は成立するものとする。
- (9) 視覚部門の障害区分24は、光を通さないアイマスクまたはアイシェードを装着しなければならない。したがって、走路へ入る前にアイマスクを装着し、走路を出るまではアイマスクを外してはならない。(スターティングブロック設置等の行為はアイマスクをした状態で行う。)
- (10) 跳躍(走高跳を除く)・投てき競技の試技は3回とする。ただし、立幅跳と投てき競技は連続して3回の試技をする場合がある。なお、フィールド競技の場合、練習は試技順に原則として1回とする。
- (11) 走高跳のバーの最初の高さは、全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説P19)及び参加申し込み時の申告を参考に決定する。バーの上げ方は、2cmずつとする。
- (12) 視覚部門(24, 25)の立幅跳及び投てき競技については、必要に応じて競技役員又は、競技補助員が方向を指示するものとする。
- (13) スタートについては、「イングリッシュコール」とし、不正スタート(フライング)は1回目で失格となる。イングリッシュコールは、「On your marks」(位置について)―「Set」(用意)となる。

7 退 場

競技が終了した選手は、競技役員の指示により誘導係と退場すること。

8 表 彰

- (1) 各種目、各組単位で障害区分ごとに1位から3位までの入賞者を表彰する。
- (2) 表彰は、各種目・各組競技終了後直ちに行うので、3位までの入賞者は係員の指示に従い、誘導係と表彰者控所に移動する。

水 泳 実 施 要 領

1 競技規則

競技規則は、令和8年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和8年4月1日より実施分発行）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 招 集

- (1) 招集は、招集場で行うので、係員の指示に従うこと。
- (2) 招集は、競技開始時刻20分前に完了すること。
- (3) 招集時間に遅れた選手は、棄権とみなす。
- (4) 競技時刻は、進行の都合により変更する場合があるので、放送等に十分注意すること。

3 競技方法

(1) 選手の紹介

競技前の選手の紹介の際は、椅子から立って紹介を受ける。ただし、車椅子使用者及び立つことが困難な選手は、座ったまま片方の手をあげる等により紹介を受ける。

(2) 介 助

障害により介助者による補助や指示がどうしても必要な選手（下肢障がい者及び視覚・聴覚障がい者）については、申込時に介助者の申請ができる。

プールの出入り等で補助を要する者には競技役員及び介助者による介助を行う。

(3) 誘 導

競技場内での誘導は、競技役員が行う。

(4) 障害区分23の者は「本人が準備した」ブラックゴーグルを装着し競技終了まで外してはならない。

(5) 障害区分23の者及び同等の障害が重複する者のゴールとターンでは、競技役員または許可された者が安全な棒などを使って身体をたたいて合図（タッピング）しなければならない。障害区分24の者には行うことができる。

(6) 飛び込みスタートは、水中スタートまたは飛び込みスタートを選択できる。

4 番号布

番号布は、主催者が交付したものを招集の際に競技役員に見せること。

5 競技会場

- (1) 水泳場においては、事故防止に十分に気を付けること。
- (2) 会場の秩序については、競技役員の指示に従うこと。
- (3) 泳いだ後、観客席に移動する際に必ず水気を拭いて移動すること。

6 表 彰

- (1) 各種目、各組単位で障害区分ごとに1位から3位までの入賞者を表彰する。
- (2) 入賞者の表彰は、組別の競技終了後に行う。

卓 球 実 施 要 領

1 競技規則

競技規則は、令和8年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和8年4月1日より実施分発行）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 招 集

- (1) 選手招集は、卓球会場で行うので、係員の指示に従うこと。
- (2) 選手招集時刻は、競技開始時刻10分前とする。
- (3) 選手招集時刻に遅れた選手は、原則として棄権とみなす。

3 競技方法

- (1) 競技種目は、一般卓球とサウンドテーブルテニス（略称S T T）とし、3ゲームマッチ（1ゲームは11点）、サービスは2本で交替する。
- (2) 試合は、原則としてリーグ方式で行う。
- (3) 障害区分別で参加者が少ない場合は、別の障害区分の者と対戦することがある。
ただし、この場合の順位の決定、記録の認定及び表彰は、それぞれの障害区分毎に行う。
- (4) 視覚障害部門で、視力・視野の程度に関わらず、アイマスク・アイシェードの有無で出場競技を分ける。
- (5) 精神障害部門は、年齢区分なしとする。

4 競技用具

- (1) 一般卓球の使用球の色は白、直径は40mmのものを使用する。
- (2) S T Tの使用球は競技規則のとおり（直径は40mm）とする。

5 番号布

番号布（ゼッケン）は、主催者が交付したものを一般卓球は競技用服装の背部に、S T Tは競技用服装の胸部に付けること。

6 開始式・表彰式

- (1) 開始式は、競技開始前に競技会場で行う。
- (2) 1位から3位までの入賞者の表彰は、全試合終了後に行う。

7 その他

- (1) 下肢障害者で、義肢、松葉杖等を使用する選手は、特に支障のない限り、接触面に当てるための布やカバー等を用意すること。
- (2) S T Tに出場する選手は、各自で用意したアイマスク・アイシェードを着用すること。

アーチェリー実施要領

1 競技規則

競技規則は、令和8年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和8年4月1日より実施分発行）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 競技方法

(1) 競技種目は、男女とも次のとおりとする。

ア 50m・30mラウンド

50m、30mの各距離から1エンド3射（2分）で36射ずつ行射する。

イ 30mダブルラウンド

30m、30mの各距離から1エンド3射（2分）で36射ずつ行射する。

(2) 部門は、リカーブ部門とコンパウンド部門とする。

(3) 標的は、次のとおりとする。

50m・30mラウンドでは、80cm標的面を使用する。

30mダブルラウンドでは、80cm標的面を使用する。

(4) 試射・行射数及び行射時間は次のとおりとする。

ア 試射は、競技の最初に3射（2分）を2回行う。

イ 行射数は、各距離においてそれぞれ1エンドに3射ずつ計36射とする。

ウ 行射時間は、1エンド3射2分以内とする。

(5) 採点行為（看的行為）は、主管競技団体に委任するものとする。

3 用具及び安全確保

(1) 競技に必要な用具は、競技者が各自用意して参加すること。

(2) 矢（アロー）には、必ず規定のネームを記入すること。

(3) 水平の引き打ち、引き戻しの励行。（暴発防止のため）

4 番号布

番号布（ゼッケン）は、主催者が交付したものを使用し、背部又はクィーバー（矢筒）に付けること。

5 開始式・表彰式

(1) 開始式は、競技開始前に競技会場で行う。

(2) 1位から3位までの入賞者の表彰は、競技終了後に競技会場で行う。

フライングディスク実施要領

1 競技規則

競技規則は、令和8年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和8年4月1日より実施分）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 競技方法

- (1) 種目は、アキュラシーとディスタンスとし、すべて競技役員（審判員）の指示にて進行すること。
- (2) アキュラシー（ディスリートファイブ、ディスリートセブン）
 - ア プレーヤーは、10投連続して試技するものとする。
 - イ スローイングの方法は、どの投げ方でも認められる。
 - ウ 試技の時間は、プレーヤーが1投目のディスクを受け取ってから5分とする。
5分を超えた試技は、無効とする。
- (3) ディスタンス（立位、座位）
 - ア プレーヤーは、1投の練習（テストスロー）の後、連続して3投試技するものとする。
 - イ スローイングの方法は、どの投げ方でも認められる。
 - ウ 試技の時間は、プレーヤーが1投目のディスクを受け取ってから3分とする。3分を超えた試技は、無効とする。
 - エ 記録は、3投中最も距離の遠い着地点を計測する。
- (4) 競技上有利となる用具の使用は認めない。

3 受付

会場に到着したら、受付テントで受付を行う。市町村、施設、学校については、引率者がまとめて受付を行う。

ディスタンス競技の出場選手は、アキュラシー競技の受付時間に受付してもよい。

4 招集

- (1) 招集開始時刻は、原則としてその組の競技開始20分前とする。
- (2) 選手は、競技開始10分前までに選手招集所に集合し、番号布（ゼッケン）等により競技役員の点呼を受けること。
- (3) 招集時刻に遅れた選手は棄権とみなす。

5 用具

競技に使用する公式ディスク及び練習会場で使用するディスクについては、主催者で用意する。

6 番号布

番号布（ゼッケン）は、主催者が交付したものを競技用服装の胸部及び背部に付ける。

7 表彰

各組終了後、1位から3位までを表彰する。

8 その他

- (1) 原則として、雨天であっても競技実施とするため、雨具は各自で準備するものとする。
- (2) 選手の待機場所は特に設置しないため、必要なテント及びシート、椅子等は各自で準備すること。

ボウリング実施要領

1 競技規則

競技規則は、令和8年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和8年4月1日より実施分発行）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 競技方法

- (1) 競技方法は、シングルレーン方式（1つのレーンで投球）で行う。
- (2) 競技はスクラッチ（ハンディキャップなしの記録）2ゲームマッチとその合計により順位を決定する。
- (3) 隣り合ったレーンで同時に投球姿勢に入った場合は、右側レーンの選手を優先する。
- (4) 自動式ファール判定機は、使用しないで競技を行い、ファールラインを超えても意図的なものでない限りファールとしない。
- (5) オートマチックスコアの操作、個人記録カードの記入は、全て競技委員が行う。
- (6) 競技は、全て競技役員の指示に従って実施する。

3 招 集

- (1) 招集開始時刻は、第1シフト（9：50～）第2シフト（11：30～）第3シフト（13：00～）とする。
- (2) 招集完了は、競技開始10分前とする。
- (3) 招集完了時刻に遅れた者は、棄権したものとする。

4 開始式・表彰式

- (1) 開始式は、令和8年5月10日（日）に、1シフトの選手のみで10時10分より競技会場にて行う。
- (2) 表彰式は、各シフトの各競技レーン終了後に競技会場で行う。各組の1位から3位までを表彰する。

5 競技服装

- (1) 服装は、ボウリング競技をする上で、支障のないものを着用すること。
- (2) ソックスは、各自で準備し、必ず履くこと。
- (3) 番号布（ゼッケン）は、主催者が交付したものを胸部及び背部につけること。

6 その他

- (1) 選手は、競技中ボウラーズエリアを離れてはならない。
やむを得ず離れる場合は、必ず競技役員に申し出ること。
- (2) ボウラーズエリアへの立ち入りは、競技役員・実施本部役員・選手及び選手一人に対して一人の監督またはコーチとする。
- (3) ボウラーズエリア内の飲食・喫煙は禁止とする。
- (4) 競技会場のハウスシューズ・ハウスボールを使用する場合は、会場の受付で申し込むこと。ハウスシューズ代金は自己負担とする。
ア ハウスシューズの履き替えは、ボウラーズベンチで行う。
イ ハウスボールは所定の場所から選んで使用し、競技終了後速やかに返却する。
- (5) ボールを拭くタオルは、競技場に用意する。
- (6) 競技上不明な点は、競技本部に問い合わせること。

ボ ッ チ ャ 実 施 要 領

1 競技規則

本大会の競技規則は、令和8年度全国障害者スポーツ大会競技規則及び全日本ボッチャ協会競技規則 2025-2028 v1.0 によるもののほか、以下に定めてある本大会独自ルールを優先して行う。

2 競技方法

- (1) 座位選手は車いす又は椅子座位、立位選手は立位（杖等使用可）での個人戦とする。
- (2) 1試合2エンド制、同点の場合は引き分けとする。勝敗を決する必要がある順位決定戦・決勝トーナメント戦の場合は、各サイド1分間のファイナルショットにより勝敗を決定する。
- (3) 試合時間は1エンド6分、ウォームアップは2分とする。
- (4) 1エンド目は赤サイドが先攻、2エンド目は青サイドが先攻でジャックボールを投球し、エンドを開始する。
- (5) 選手は、6個のカラーボールを使用し、赤サイドは3番、青サイドは4番のスローイングボックスとする。
- (6) 予選リーグ戦を行い、各パート上位者による決勝トーナメントを行う。（上位者の人数は大会当日に発表する。）各パートの順位は、勝ち点、直接対決、得失点差の順で判断し、全て同率の場合は、該当選手によるファイナルショットで決定する。
（勝ち点 勝：2点 引き分け：1点 敗：0点）
- (7) 当日欠場選手が生じた場合には、リーグ内での組合せ変更を審判長とコート主任が行い、不戦勝が生じないようにする。途中欠場等でやむを得ず不戦勝が生じた場合は、勝ち点2とし、得点は3－0での勝利とする。

3 開始式

開始式は、令和8年5月10日（日）に、競技会場にて行う。

4 表彰

表彰は、立位、座位の部で1位から3位までを表彰する。

5 招 集

- (1) 招集開始時刻は試合開始時刻の10分前とし、コートに隣接する選手控えエリアで待機すること。
- (2) 前の試合が終了次第、選手の確認と先攻・後攻等を定める。

6 その他

- (1) 審判によるコイントスで、勝った方が先攻・後攻のどちらかを選択する。
- (2) 全てのボールの投球後、またはエンド時間終了後に、審判は選手に異論がない事を確認してから得点を確定し、エンドの終了を宣言する。
- (3) ヴァイオレーション（ファウル）が生じた場合は、ボールのリトラクション（除去）のみとし、ペナルティースローは実施しない。（主なヴァイオレーション：ラインクロス、投球準備違反、コミュニケーション違反、相手サイドへの妨害行為など）
- (4) 審判がいずれかのサイドの投球指示を出したあと、投球を指示されていないサイドにおいては投球及び投球準備（ボールを揉む、狙いを定める、投球に関するコミュニケーション等の行為）をしてはならない。これらは、ヴァイオレーション扱いとなる。
- (5) 競技上不明な点は、競技本部に問い合わせること。

バレーボール実施要領

1 競技規則

競技規則は、令和8年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和8年4月1日より実施分発行）によるものの他、この要領に定めるところによる。

2 施設と用具

- (1) コートは18m×9mの広さを持つ長方形とする。
- (2) ネットの高さは2m24cmとする。
- (3) ボールは（財）日本バレーボール協会制定のソフトバレーボール球・糸巻き（モルテン製円周78±1cm、重量210±10g）の規格のものを使用する。色については規定しない。

3 競技参加者

- (1) 試合は6人制で行う。（必ず女性選手が常時1人以上出場していること。）

4 競技方法

- (1) 試合は3セットマッチとし、2セットを先取したチームを勝ちとする。
- (2) 1セット25点のラリーポイント制とする。なお得点が「24対24」の同点となった場合、2点リードしたチームをそのセットの勝者とする。
- (3) 予選は、リーグ戦方式とし、決勝は、トーナメント方式とする。ただし、参加チーム数によっては、全てトーナメント方式で行うことがある。この場合、以下の規定の内、予選リーグは適用しない。
- (4) 予選リーグで勝率が同率の場合は、セット率、得点率の順番で順位を決定する。
- (5) 第3セットは、リードしているチームが13点に達した時には、ただちにコート交代をする。
- (6) それぞれのチームには、1セットにつき最大2回（1回30秒間）のタイムアウトと6回の競技者の交代が認められる。（タイムアウトは、監督あるいは監督が不在の場合はゲームキャプテンが要求できる。）交代の際には、6人制競技規則に基づいた交代の方法を取る。
- (7) スターティング・ラインアップの競技者は交代によりコートを離れても、1セットにつき1度だけスターティング・ラインアップの元のポジションに戻るることができる。
- (8) 例外的な交代として、負傷した競技者の代わりに、その時点でコート上にいないいずれかの競技者と交代ができる。ただし、交代後も必ず女性選手が1人以上出場していなければならず、不可能な場合には、その時点でゲーム終了とし、そのセットより無効となり不戦敗とする。
- (9) サービスの実行
 - ア 主審がサービス許可の吹笛後8秒以内にボールを打たなければならない。
 - イ サーバーはエンドラインの後方、かつサイドライン延長線の内側で打たなければならない。その際にエンドラインを踏んではならない。
 - ウ サービスはボールがトスされたか、手から離された後、片方の手または腕で

打つ。(片方の手のひらに置いたままのボールを、もう片方の手で打つことはできない。)

エ サーバーがサービスを打つ順番は、事前に提出されたサービング・オーダーに従わなければならない。

(10) プレー上の動作

サービスを直接アタックもしくはブロックして相手コートに返すことはできない。

(11) 競技者は、フロントやバックなどの位置による一切の制限を受けずに、自由に移動してプレーすることができる。

(12) 試合開始時刻(下記の時刻を原則とするが、選手の状況により柔軟に対応する)
ア プロトコールは、日本バレーボール協会 6 人制競技規則に準拠し 11 分で行う。

イ 予選リーグは、前の試合終了 10 分後にプロトコールを開始する。

ウ 予選リーグ最終試合終了 30 分後に決勝戦及び 3・4 位決定戦のプロトコールを開始する。

5 服装

(1) ナンバーは、ユニフォームの胸部と背部の中央に付けなければならない。

(番号の大きさは胸部 10×10 cm、背部 15×15 cm、字幅 2 cm とする。)

(2) チームキャプテンは、胸のナンバーの下にマーク(横線)を付けなければならない。

(3) ユニフォームには必ずチーム名を入れなければならない。ユニフォームに入れられない場合は、番号布に記入する。

(4) 監督・コーチ・マネージャーは、それぞれワッペンを付けなければならない。

6 監督・コーチ・キャプテン

(1) 競技中断中の時、ゲームキャプテンだけが審判に対して話することができる。

(2) 監督はベンチの記録席に最も近い位置に座る。ただし、一時的にベンチを離れてもよい。

(3) 監督は試合を妨害あるいは遅延しない限り、アタック・ラインの延長線からウォーム・アップ・エリアまでのフリー・ゾーンの範囲内では、立ったままで、あるいは歩きながら指示を与えることができる。

(4) コーチ、マネージャーはベンチに座るが、試合に介入することはできない。

7 表彰

表彰は、競技終了後直ちに行い、1 位から 3 位までを表彰する。

8 その他

本規則に定める以外は、令和 8 年度の公益財団法人日本バレーボール協会 6 人制競技規則による。

ミニバレーボール実施要領

1 競技規則

競技規則は、令和8年度ミニバレーボール協会競技規則によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 コート

- (1) コートは、バドミントン・ダブルスコート（13.4m×6.1m）を用いる。
- (2) エンドラインの後方の、両サイドラインの延長線内側にてサービスを行う。
- (3) ネットの高さは、2.0mとする。

3 チームの構成

- (1) 競技は6人制とし1チームに監督とキャプテンを置く。
- (2) 選手の交替は何人でも行えるが、ボールがデッドの時に審判に告げる。
- (3) メンバーチェンジの方法については、試合前にローテーションかメンバーチェンジかを主審に告げる。

4 招 集

- (1) 招集は、ミニバレーボール会場で行うので、係員の指示に従うこと。
- (2) 招集は、競技開始時刻10分前に完了すること。

5 競技方法

- (1) パートごとによりリーグ戦を行う。
- (2) 各パートの順位決定は以下の順により決定する。
 - ア 勝利数の多い順
 - イ 取得セット率の大きい順（取得セット数／喪失セット数）
 - ウ 得失点差の大きい順（総得点数－総失点数）
 - エ 代表者一人による抽選
- (3) リーグ戦終了後に交流戦を行う。但し、交流戦の結果は順位には反映しない。
- (4) 主審、副審、線審はミニバレーボール協会員が行う。

6 ゲームの進行

- (1) 試合前に主審は、両チームのキャプテンを呼び、じゃんけんに勝ったチームのキャプテンにサーブ権かコートかを選択させる。
 - ア スターティングメンバーがアタックラインに沿って並ぶ。

イ キャプテンは主審側に立つ。主審の合図でポジションにつく。

ウ 乱打を3回行う。主審のサービス開始の笛で始める。

- (2) 競技はラリーポイント制、3セットマッチとし、2セット先取したチームをその試合の勝者とする。
- (3) 1, 2セット21点先取したチームが勝ち、1対1の場合3セット目は15点先取したチームを勝ちとする。
- (4) コートは各セットごとにコートチェンジをする。第3セットは、片方のチームが8点を先取した時にコートチェンジする。
- (5) サービスは2回とする。また使用できるサービスはアンダーサービス（下からのサービス）のみとする。
- (6) サイドアウトによりサービス権を得たチームは、ただちに時計の針と同じ方向へ位置を移し、前衛右の選手が後衛右に移動してサービスを行う。
- (7) ボールは、1人1回3人にて3回目に相手コートにネット以外の物体に触れることなく返球されなくてはならない。
- (8) 後衛の選手は、アタックラインより前から攻撃することはできない。

7 番号布及び監督章

- (1) 番号は、自分のチームで作成した1から始まる一連番号を書くこと。番号は背部に1枚付ける。
- (2) 監督は腕章を付けること。

8 表彰

表彰は競技終了後にパート毎に行い、1位から3位までを表彰する。

9 その他

- (1) タイムアウトは1セットにつき1回とする。
- (2) インプレー中は、選手およびボールが支柱、アンテナに触れた場合はアウトとなる。
- (3) ボールがネットにかかった時、1、2回目は有効、3回目はアウトとする。
- (4) 止むを得ず職員がチームのメンバーに入る場合は、そのチームはオープン扱いとし、表彰から除外する。

グラウンド・ゴルフ実施要領

1 プレー規則

プレー規則は、令和8年度（公社）日本グラウンド・ゴルフ協会プレー規則によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 チームの編成（団体戦）

- (1) プレーは5人制とし、チーム毎に主将を置く。
- (2) 選手の交替は、やむを得ない事故の場合に認める。ただし、交替はラウンド終了後に行う。

3 招集

- (1) 招集は、会場で行うので、係員の指示に従うこと。
- (2) 招集は、プレー開始時刻10分前に完了すること。

4 ゲームの進行

- (1) 先攻チームの全員が第1打を打ち終わってから、次のチームがスタートする。
- (2) ボールはあるがままの状態打ち、ボールの周りの障害物を取り除いたりしてはいけない。この反則は1打付加する。
- (3) ボールが、コース外（みぞなどに落ちた場合）に出た時は1打付加し、コース外に出た位置からホールに近寄らない方向に、クラブ1本分以内の所にボールを置いて次の打を行わなければならない。
- (4) ボールの進行方向に他の人のボールがあるときは、そのボールの持ち主はボールの後方にマークをし、ボールを取り除く。
- (5) ボールが他の人のボールに当たったときは、ボールの止まったところからプレーを始め、当てられたボールは当てられた本人が元の位置に戻す。
- (6) 1打目でホールポストに入ったときは、その選手の合計打数から3打引いて計算する。（ホールインワン）
- (7) チームの選手全員がプレー終了後、チーム全員の打数を合計し、少ないチームの勝ちとする。

5 プレー方法

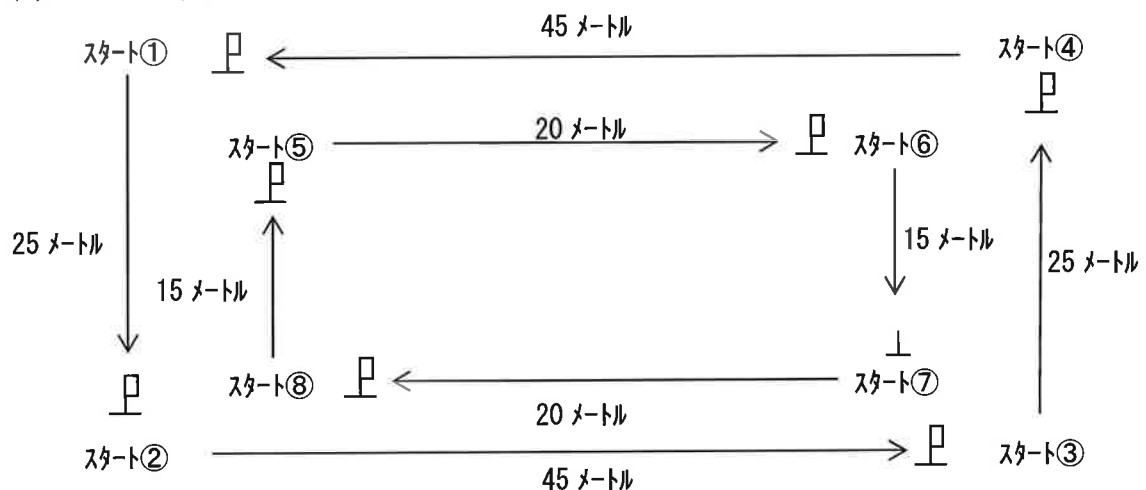
- (1) 会場には、標準の同一コースを2箇所（A・Bパート）設置する。
- (2) 異なる2チーム1組で1ホールを回り、1パート最大7チームがプレーする。
- (3) 各組所定のホールから一斉にスタートし、午前・午後で8ホールずつ回る。
- (4) プレーの進行はコート主任に従うこと。
- (5) ゲームの判定は、ペアを組んだ相手側チームの主将が行う。（判定が困難な

場合は、同伴プレーヤーの同意を求める。)

- (6) 打数の記録は記録員が行う。
- (7) 2つのパートでプレーを行い、パートごとにコースを2周した合計打数で優勝を争い、チーム全員の打数の合計が最も少ないチームを勝ちとする。
- (8) 各パートで、合計スコアが同率順位の場合は、以下の順で決定する。
 - ア ホールインワンの数
 - イ 2打の数（2打目でホールポストに入った数）
 - ウ チーム代表者によるニアピン対戦（30m）

6 標準コース

- (1) コースは内回りコース4ホール、外回り4ホール計8ホールとする。
- (2) コース図



7 番号布及び主将章

- (1) 番号は、自分のチームで作成した1から始まる一連番号を書くこと。番号布は、胸部と背部に1枚ずつ付けること。
- (2) 主将は腕章を付けること。

8 表彰

表彰は、プレー終了後パート毎に行い、1位から3位まで表彰する。

9 その他

止むを得ず職員等がチームのメンバーに入る場合は、そのチームはオープン扱いとし表彰から除外する。